

令和7年度 乙房小学校 学校運営協議会 実施報告

1 学校の概要

学校名	都城市立乙房小学校		校長名	若松 宏一	
学級数	10学級	児童生徒数	204名	職員数	20名
教育目標	自ら学び、心豊かに力強く生き、ふるさとを愛する児童の育成				

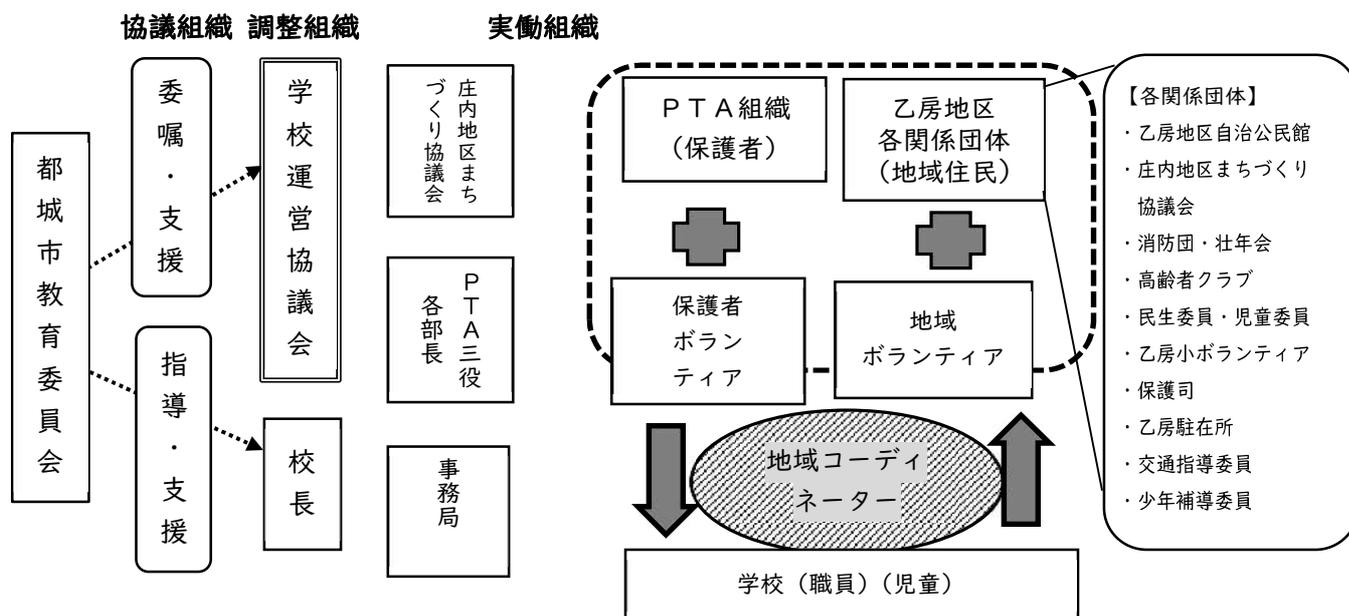
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員（8名）・事務局（3名）

No.	所属名（役職）	氏名	備考
1	乙房地区自治公民館長	武田 一夫	
2	乙房地区自治公民館 副館長	秋永 幸一	
3	乙房地区民生児童委員	岩橋 文子	
4	乙房地区民生児童委員	松崎 幸子	
5	都城市教育委員会文化財課	武田 浩明	
6	元PTA会長	床次 武善	副会長
7	乙房こども園長	刀坂 弘毅	会長
8	PTA会長	永山 敏郎	

役職	氏名
校長	若松 宏一
教頭	宮田 清仁
教務主任	音山 福太郎

(2) 組織編制



3 年間の活動計画

月 日	主な活動及び内容
4月	学校運営協議会委員選出
5月 16日	第1回学校運営協議会（委嘱状の交付、協議会の趣旨説明、学校経営の説明）
25日	運動会参観
9月 9日	第2回学校運営協議会（学校評価の年間計画・方法及び内容等の説明、授業参観）
11月 10日	乙房ふれ愛祭り支援及び参観
12月 11日	第3回学校運営協議会（学校関係者評価の依頼、授業参観）
1月 20日	第4回学校運営協議会（学校関係者評価の説明と今後の取組、授業参観）
2月 25日	第5回学校運営協議会（学校評価報告書と今後の取組についての説明、本年度の振り返り）
3月	学校評価結果の公表・次年度に向けての準備

4 今年度実施した「熟議」のテーマ

1月：教育課程の編成

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本校では、伝承芸能である「乙房奴踊り」に取り組み、クラブ活動や放課後に活動する「乙房小学校民俗芸能伝承研究会」で、地域の方に三味線や太鼓の指導をしていただいている。丁寧な指導により、子どもたちの演奏が上達しており、地域の祭り等での披露の際は、三味線や太鼓、唄を全て子どもだけで行っている。指導者の高齢化が進んでいるため、学校運営協議会委員にも指導者の現状を伝え、指導者の人材確保について協力をお願いしている。



【三味線指導の様子】

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

○ 次年度、通知表の配付を年3回から2回（10月と3月）にすることを検討していると報告した。その際、2学期末を学習のまとめの時間として活用し学力向上につなげたいと説明したところ、その成果を示す必要があるという御意見をいただいた。それを職員に伝え、学力向上を目指した取組について協議したことで、今後、具体的に取り組む内容について共通理解をすることにつながった。

○ 地域素材や地域人材の活用等を積極的に推進した教育活動である「乙房ふれ愛祭り」を実施した。回数を重ねるごとに講師の方が指導内容を工夫してくださり、児童の熱心な取組につながっている。その中で、学校運営協議会委員をはじめとする乙房在住の地域人材を活用した「キャリア教育座談会」を実施している。地域の方や保護者、学校職員との交流を通して、支えてくださる方々に感謝し、乙房地域の一員としての自覚をもたせ、思いやりの心を育てるよい機会となっている。地域の方との交流活動は、本校の教育目標を達成する上で意義深く、次年度の教育課程にも位置付け、地域の方にさらに声かけしながら活動の輪を広げる予定である。



【乙房ふれ愛祭りの様子】

(3) 地域貢献活動

地域行事の「乙房神社夏まつり」「庄内ふるさと祭り」「乙房地区敬老会」など、様々な場面で、地域の方が楽しみにしている伝承芸能「乙房奴踊り」を披露することで、地域に貢献できた。

2月末には、日頃お世話になっているスクールガードの方や読み聞かせボランティアの方、三味線の指導者をお招きして感謝集会を行い、一人一鉢の取組で児童が育ててきた鉢植えをプレゼントすることになっている。



【乙房奴踊りを披露】

6 学校運営協議会の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 本校の教育活動について、学校運営協議会委員に客観的に評価していただき、本校のよさや改善すべき点が明確になった。特に、児童の安全面など学校だけでは解決できない課題について共通理解し、地域の方と協力しながら課題解決を図る方策を確認することができた。
- 学校と地域がどのような活動において、どのように協力していくのかしっかりと協議することができ、次年度の教育活動を計画する上で参考になった。
- 「あいさつ」や「学力向上」等の本校の教育的課題を解決するために、学校・家庭・地域の連携・協働について、更に協議を進めていく。学校が進めているICTを活用した家庭学習等については、委員から意見が出され、地域や保護者との共通理解が十分でないことが分かった。

7 次年度の方向性

- 昨年度、再開されたり新たに実施されたりした地域のいろいろな行事の反省を基に、本年度は計画的に準備ができ、これまでとは違った内容を取り入れたりするなどの工夫が見られた。学校も積極的に協議に参加し、地域への貢献とふるさとを愛する心の育成に努めたい。また、本年度、地域の方が中心となり、「乙房を語る会」が3回行われたが、学校からは管理職のみの参加であった。数年前までは、年度初めに職員と保護者、各自治公民館長、民生委員・児童委員の顔合わせ及び意見交換のために実施していた会なので、学校職員の参加を検討し、さらに相互の関係づくりに努めたい。
- 「炊き出し訓練」の実施に向けて、学校と自治公民館、地区壮年部で話し合いを重ねてきた。本年度は、管理職だけでなく担当職員も参加し、充実した意見交換ができた。地域の災害対応への意識付け及び地域と学校の協働活動の推進のために非常に有意義な取組なので、学校運営協議会における協議内容に取り入れたい。そして、学校運営協議会が今以上に学校と地域をつなぐ役目を果たし、学校と地域が協力していける体制づくりの要となるよう熟議を重ねたい。